

茨城新聞

4月21日

木曜日

茨城新聞社

文部科学省の「創意工夫功労者賞」を受賞した企業関係者たち＝県庁



品質向上に貢献 県内14人を表彰

創意工夫功労者賞

生産現場で作業効率を改善し、品質向上に貢献した技術者へ贈られる「創意工夫功労者賞」の表彰状伝達式が20日、水戸市笠原町の県庁で開かれ、県内の受賞者14人に賞状と記念品が贈られた。

同賞は、文部科学省が科学技術分野で際立った実績を上げた技術者をたたえる

とともに、ものづくり産業全体の品質向上を目的に毎年開催。製造技術や組み立てラインの改善などで、生産性を向上させた技術者を選ぶ。全国では本年度、計978人が選ばれた。

工作機器部品の加工方法を改良し、不良品割合90%だった他社従来品の加工を請け負い、同2%と大幅に引き下げた精密板金加工の日本ゲージ（茨城町長岡）では、久代伸一さん（49）ら3人が受賞。久代さんは「現

在は不良品がほぼゼロで供給能力も向上している。これからもさらなる創意工夫に取り組みたい」と笑顔を見せた。（大平賢二）

ほかの受賞者は次の通り。（敬称略）

久保田成一（日本ゲージ）加茂川哲（同）小林活人（日立製作所）會澤昌八（同）小松崎諭（三菱日立パワーシステムズ）益子博幸（同）小林栄一（三菱化学）五月女昌弘（日立ハイテクノロジーズ）福元孝幸（日立産機システム）佐藤琢成（同）竹中哲義（同）福嶋亨（新日鉄住金）眞瀬智也（京三電機）

障害者支援機器研究 AMEDと契約更新

サイバードesign

筑波大発ベンチャーのサイバードesign（つくば市、山海嘉之社長）は20日、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者などを含む障害者のコミュニケーション支援機器の研究開発について、日本医療研究開発機構（AMED）から委託を受け、契約

を更新したと発表した。研究開発費は1千万円の予定。

今回の研究で、サイバードesignは四肢がまひした状態でも体を流れる電気信号を通し、意思伝達を可能にするシステムを構築する。委託期間は4月1日から2017年3月31日の予定。同社は昨年11月から、AMEDと委託契約を結び研究開発を進めている。

県産コシ変わらず

自由米市況

新潟県産コシヒカリと本県産コシヒカリ、北海道産になつばしは、いずれも変わ